

## 教師教育を取り入れた家庭科の大学授業

山本紀久子\*・田上和子\*\*

(2009年9月15日受理)

University-level Home Economics Course that Utilizes Teacher Education

Kikuko YAMAMOTO and Kazuko TAGAMI

キーワード：教師教育，授業実践力，家庭科教材，ワークシート，オリジナルアクリルたわし

教師教育の一環として，小学校教師を志望する学生を対象に，授業実践力育成のために「オリジナルアクリルたわしの教材開発と実生活での掃除体験報告のためのワークシート作成」の課題の設定を試み，受講生に授業評価を求めた。

その結果，アクリルたわしは平均 21.0 分で製作できた。また，5 件法による自己評価は，ワークシート 3.46 < 帯ラベル 3.61 < アクリルたわし 4.00 の順に高く，教材として評価は，帯ラベル 4.11 < アクリルたわし 4.26 < ワークシート 4.41 の順に好意的であった。

### はじめに

平成 20 年 3 月文部科学省から小学校学習指導要領が告示され，平成 23 年度実施の小学校学習指導要領「家庭」では，引き続き「ごはんのみそしる」が，指定教材として提示されているものの，他の教材は，地域や児童の実態等に応じて学校裁量にまかされることとなった。そのため，これまで以上に教師の力量が問われることになるだけに，小学校教師志望の学生に対する教師教育の重要性が痛感される。

そこで，教師教育の一環として，小学校教師を志望する学生を対象に，授業実践力育成のために「オリジナルアクリルたわしの教材開発と実生活での掃除体験報告のためのワークシート作成」の課題設定を試み，受講生に授業評価を求めた。

\* 茨城大学教育学部 (Department of Home Economics, College of Education, Ibaraki University)

\*\* 聖徳大学児童学部 非常勤講師 (Department of Child Studies, College of Child Studies, Seitoku University)

具体的には、指ねじり編みによるアクリルたわしの作品製作を行い、製造・販売者の立場で帯ラベルの作成、アクリルたわしによる掃除後、教師の立場でワークシートの作成、児童の立場でワークシートの記入、ワークシートの相互評価を実施した。その後、受講生に対して授業がどのような効果をもたらすかを確かめるために、アンケートによる授業評価を求めた。

なお、この課題に用いた教材「オリジナルアクリルたわし製作・帯ラベルの作成・掃除体験・報告のためのワークシート」は平成23年度実施の小学校学習指導要領「家庭」C領域「快適な生活」及びD領域「身近な消費生活と環境」に対応する教材と考える。

## 研究方法

### 1 対象

対象の受講生は、小学校教師を志望し、教職関連科目の「家庭」を履修する112人である。そのうち、指ねじり編みによるアクリルたわしの作品製作、アクリルたわしによる掃除、ワークシートの作成、ワークシートの相互評価などの一連の学習過程を経てアンケートによる授業評価用紙を提出した99人とした。対象である受講生は、小学校教師を志望しているところから、教師と学習者の両者の立場を意識した回答が得られる可能性があると思われる。

### 2 実施場所と時期

講義室において授業15回中5回目の2009年5月8日1コマ90分で、アクリルたわしの製作及び帯ラベルの作成、家庭学習として、アクリルたわしによる掃除後、ワークシートの作成・記入をする。

次回の5月15日の1コマ90分のうち30分間を使い、受講生によるワークシートの相互評価及び授業評価を実施した。

### 3 材料・用具

教師側では、指編みの編み方資料として、手形にねじりメリヤス編み方手順が記載されているA4用紙を用意した。さらに、アクリル100%スラブヤーンを受講生2人に1玉、ワークシートの相互評価時に、直径15mmの丸形シールを1人1枚(十字に4等分したもの)を配布した。資料見本として、アクリル100%スラブヤーンのドーナッツ型アクリルたわし3個を準備した。

### 4 アンケートによる授業評価の内容項目

アンケートによる授業評価の内容は、アクリルたわし製作に費やした作業時間、アクリルたわしの商品名とともに、アクリルたわしと帯ラベルの自己評価と教材性、ワークシートの自己評価と教材性を5件法で求めるとともに、その選択理由と感想を自由記述法で求めた。

### 5 手続き

オリジナルアクリルたわしの作品製作、帯ラベルの作成、ワークシート作成は、受講生によって、

以下のような授業の流れでなされた。

- 1) 授業開始前から積極的に観察できるように資料見本を教卓に提示しておく。  
授業開始後、本時と次回の授業の流れを説明する。「アクリルたわしの製作後、帯ラベルを作成して提出します。すぐに作品を返却しますので、家でアクリルたわしを用いて清掃をして、報告するためのワークシートを作成します。ワークシートは教師の立場で作成し、児童の立場から赤ペンで記入して来週（授業6回目）提出します」と告げる。
- 2) 指編みの編み方資料A4用紙を配布後、2人で1玉のアクリル毛糸の中と外の糸をそれぞれとって使用することを示演・説明後、アクリル100%スラブヤーン1玉を配布する。さらに、ねじりメリヤス編みを筒状にしたリリヤンねじりメリヤス編みを示演する。編み方資料で作業過程を確認しながら、製作を開始する。机間指導しながら、個別に編み方を支援する。
- 3) 終了40分前に帯ラベル用紙を配布し、「消費者に必要な情報を盛り込み、購入したくなるようなラベルを製造者の立場になって作成します」と告げる。受講生は帯ラベルを付けてアクリルたわしを提出する。
- 4) 次回：授業開始前にワークシートを受講生から回収後、受講生を4班に分け、4等分した丸シールを配布するとともに、各班最前列席の受講生2名がワークシートを机上に並べる。班毎にそれらをじっくり見て、4枚選び、ワークシート下部に円形になるようにシールを貼る。10分後、班毎に最も多いシールのワークシートを選び、それを実物大映写機で写しながら、ワークシート作品が選ばれた理由や工夫した点などを発表する。  
その後、アンケートによる授業評価を記入後、授業終了時に回収する。

## 結果及び考察

### 1 アクリルたわしの製作とその評価

#### 1) アクリルたわしの製作

アクリルたわしの製作時には、リリヤンねじりメリヤス編みの示演や編み方手順書を見て、スラブヤーンをスムーズに編み始める受講生が半数近くみられた。机間指導をして編み方を支援すると指編みのコツをつかみ、受講生ほぼ全員が授業時間内に編むことができた。アクリルたわしの作品99個のうち、筒型を丸めたドーナツ型の形状が91個を占め、筒型のままのもの4個、糸端の始末がそのままのもの4個の順であった。

表1 アクリルたわしの製作時間

		N = 99									
製作時間(分)		5	10	15	20	25	30	35	40	45	50
件数		7	13	19	26	2	25	0	4	0	3

表1に、アクリルたわしの製作時間を示す。アクリルたわしの製作時間は平均21.0分である。

アクリルたわしの製作は授業1コマ90分で実施され、最も多かったのは20分26.3%、次は30分25.3%、15分15.2%の順である。小学校の授業1コマの時間である45分以内では97.0%、50

分以内では100%であることから、授業2コマの時間内に実施可能なものであった。



図1 アクリルたわし作品

図1に、アクリルたわし作品を示す。右上の作品は商品名「すみからすみまでピッカピッカ アクリン」で、製作時間は15分、ピンクやオレンジ色を使い楽しく掃除ができるような帯ラベルを作成した。左上の作品は商品名「アクリルたわしPIKAPIKA」で、製作時間15分、ピンクやフブルーの色で見やすい帯ラベルを作成した。手前の作品は商品名「洗剤なしで汚れすっきりアクリ子」で、製作時間は20分、毛糸は赤と茶色、帯ラベルは、消費者が購買意欲を持つように工夫されていた。

2) 受講生によるアクリルたわしの自己評価と教材評価

表2 5件法によるアクリルたわしの自己評価 N = 99

評価	5	4	3	2	1
件数	26 (26.3)	50 (50.5)	20 (20.2)	3 ( 3.1)	0 ( 0.0)

( )内は%

表2に、5件法によるアクリルたわしの自己評価を示す。アクリルたわしの自己評価の平均値は4.00(最小値2, 最大値5, 不偏分散0.59, 標準偏差0.77)で、概ね高い評価であった。評価2の理由は、「全く考えていた編み方と違っていた」、「はじめて作ったのであまり、上手にできなかった」などと、はじめての指編みにとまどいを記述している。評価1は0であった。

表3 5件法によるアクリルたわしの教材評価 N = 99

評価	5	4	3	2	1
件数	49 (49.5)	35 (35.4)	9 ( 9.1)	4 ( 4.1)	2 ( 2.0)

( )内は%

表3に、5件法によるアクリルたわしの教材評価を示す。5件法によるアクリルたわしの教材評価の平均値は4.26(最小値1, 最大値5, 不偏分散0.87, 標準偏差0.93)で、アクリルたわしの教材評価は好意的なものであった。

教材評価5の理由は、「自分で作った物を使って掃除をするので、児童も一生懸命掃除をすると思うから」、「家庭科、環境教育、掃除をしようとする心などたくさんの教育価値があると思う」、「アクリルたわしがなぜ落ちるのか、どのような工夫をしたら良いのかを考えさせ、その実用性や科学的検証を学ばせたい」、「家でもう1つ作り、いろいろの所を掃除して、どのようにしたらきれいになるのかを考え、実践した」と、掃除の教材としてどう活用するかなど考え、積極的な態度が窺えるものであった。

一方、教材評価1(2人)の理由を、「買った方が早い」と教材導入に消極的な受講生は、「作って使ってこわれなかった」と自己評価に対しては5と最も高い評価をしているものであった。他の「アクリルたわ

し作りは時間がかかる」としていたものの、「きれいに編むことができたから」からと自己評価を4としていた。

なお、受講生によるアクリルたわしの教材評価と自己評価がともに評価の5または4は、65人(65.6%)となり、評価の2または1は、0人(0.0%)であった。受講生はアクリルたわし製作に対して、教材評価と自己評価において、同じような傾向を示すことがわかった。

## 2 帯ラベルの作成とその評価

### 1) 帯ラベルの作成

帯ラベルの表示内容は、商品名、製造・発売元について99人(100%)全員が記述をしていたが、使用用途・方法・注意書き97人(98.0%)、その記述中に洗剤不使用等の環境に関する記述は61人(61.6%)、バーコード40人(40.4%)、紙のリサイクルマークは34人(34.3%)であった。

また、99人(100%)全員が、字の大きさを大小工夫し書き分けていた。色鉛筆・色ペン使用は95人(96.0%)、黒ペン使用は4人であった。多数が見やすさの工夫をしていたと窺える。

表4 帯ラベルの商品名

N = 99

項目	帯ラベルのタイトル
多キーワード 28	洗剤いらずアクリルたわし 6 エコたわしでピカピカ大作戦 4 洗剤いらずのエコかくん 3 家中ピカピカアクリルたわし2 ラクラクキレイアクリルたわし2 アクリルクリーナー 2 除菌いらずのアクリルたわし1 水なしで綺麗になるアクリルたわし1 モコモコ eco タワシ 1 Let's エコアクリルたわし1 洗剤なしで汚れすっきりアク子1 ピッカピッカ アクリン 1 ふんわりスラブのアクリルたわし1 アクリルたわしで掃除をしよう1 どこでもふけてすぐキレイアクリルたわし1
アクリル 22 (42)	アクリルたわし 13 これはヤバイ! アクリルたわし1 これ1つでok! アクリルたわし1 ラクラク! アクリルたわし1 まほうのアクリルたわし1 どんな汚れもアクリルたわし1 アクリル魔法のたわし1 アクリアミラクル1 アクリン1 アクアマリンどこでも使える1
形状 18(20)	モコモコたわし8 ふわふわたわし7 魔法のたわし1 たわしの革命1 青空たわし1
エコ 17(35)	エコたわし6 洗剤いらずエコたわし3 ecoタワシ2 地球にやさしいエコたわし2 洗剤いらずで油除去2 アイラブエコたわしくん1 わたしのたわしはエコたわし1
クリーン 14(31)	ピカピカクリーナー2 フラワークリーナー1 あっクリーン1 THE クリーン1 とれーるおちーる1 ピカピカに!1 みるみるよごれがとれーる1 どこでもなでもピッカピッカ1 ピカピカくん1 激落ち!! 1 激落ち君1 おっとそこも! キュキュッ1 ねらった汚れは逃がさないたわし1

備考: キーワード件数=128, ( )内; 総キーワード件数

表4に、帯ラベルの商品名99件を示す。商品名としては「アクリルたわし」13件(13.1%)が最も多く、次に、「モコモコたわし」8件(8.0%)、「ふわふわたわし」7件(7.0%)、「エコたわし」6件(6.0%)の順に同名のものがあつた。

帯ラベルの商品名に記述しているキーワードをアクリル・エコ・形状・クリーン・多キーワードの5項目に分類し、キーワードの記述件数を調べた。アクリルの項目には「アクリル」から「アクリン」や「アク子」などの造語も含めた。エコの項目には、エコ、eco、「洗剤いらず」などアクリルたわしが洗剤不使

用でも汚れが落とせるなどの環境問題への実践的取り組みの表現も含めた。形状の項目には、「ふわふわ」などアクリルたわしの形状を表したものと「たわし」と、あらたに命名したものを集めた。クリーンの項目には、クリーン・キレイなど汚れを落とすイメージのものを集めた。また、キーワードを組み合わせたものを多キーワードとした。例えば「洗剤いらずアクリルたわし」では「洗剤いらず」と「アクリルたわし」を記述しているので、エコとアクリルの項目で1件とした。「水なしで綺麗になるアクリルたわし」ではエコ、クリーン、アクリルを記述しているので、それぞれの項目に1件とした。

その結果、帯ラベルの商品名中のキーワード数は128件となり、キーワードは、アクリルが最も多く42件(32.8%)、次にエコ35件(27.3%)、クリーン31件(24.2%)、形状20件(15.6%)の順であった。

アクリル42件(42.4%)と最も多いことから、アクリル毛糸を用いて製作したことが商品名の考案時に強く影響していると推察できる。

エコについては、帯ラベルの使用用途・方法・注意書きに、洗剤不使用等の環境に関する記述は99人中、61人(61.6%)と多く、アクリルたわしが洗剤不使用でも汚れが落とせ、環境問題への実践的取り組みと受けとめていることから、環境教育への関心が窺えた。

## 2) 受講生による帯ラベル作成の自己評価と教材評価

表5 5件法による帯ラベルの自己評価 N = 99

評価	5	4	3	2	1
件数	20(20.2)	29(29.3)	42(42.4)	8( 8.1)	0( 0.0)

( )内は%

表5に、5件法による帯ラベル作成の自己評価を示す。5件法による帯ラベル作成の自己評価の平均値は3.61(最小値2,最大値5,不偏分散0.90,標準偏差0.83)で、帯ラベル作成の自己評価は概ね高い評価であった。自己評価2の理由は、「書くのが初めてだったので、よくわからないところがあり、必要事項かどうか見極めるのが大変だった」、「盛り込む情報に確信が持てない。調査が必要」などと、帯ラベルの作成にとまどいを持ったものだった。

表6 5件法による帯ラベル作成の教材評価 N = 99

評価	5	4	3	2	1
件数	42(42.4)	31(31.3)	21(21.2)	5( 5.1)	0( 0.0)

( )内は%

表6に、5件法による帯ラベル作成の教材評価を示す。5件法による帯ラベル作成の教材評価の平均値は4.11(最小値2,最大値5,不偏分散0.83,標準偏差0.91)で、帯ラベル作成に対する教材評価は好意的であることが窺える。

帯ラベル作成の教材評価5の理由は「買うときのポイントや消費生活のことも同時に学べる」、「生産者・消費者の両方の立場に立つことは大事だ」、「品質表示に関心を持ってくれる」など、教材評価4の理由は「商品に何が使われているのかが注意することができる」、「工夫する力がついて良いと思う」、「ふだん見ないところを見るようになる」などと、消費者教育を意識した記述がみられた。

一方、教材評価2の理由は「そんなに必要性を感じなかった」、「販売者の立場を想像するのが難しい」、

「市販品のラベルの模倣をしてしまう」、「小学生には難しいと思う」などと、小学生には難しい教材、必要性を感じないと、とらえたことが推察できる。しかし、教材評価は2としているが、自由記述では、「生産者の視点から消費者の視点へと、いろいろな視点で商品を見ることができてよかった」、「ラベルを見て購入するようになった」などとあり、消費者教育教材としての有効性をあげ、好意的にとらえている。

なお、受講生による帯ラベル作成の教材評価と自己評価がともに5または4は、41人(41.4%)、2または1は、0人(0.0%)と、受講生は帯ラベル作成に対して、教材評価と自己評価において、同じような傾向を示すことがわかった。

帯ラベル作成とアクリルたわし製作の好意的評価は、41件、65件とアクリルたわし製作が14件上回っている。

### 3 ワークシートの作成とその評価

#### 1) ワークシートの形態

ワークシートは99枚あり、そのうち、手書きは72枚(72.7%)、ワープロ使用は27枚(27.3%)であった。

また、描画入りのワークシートは34枚(37.4%)みられた。

ワークシートにおいて色鉛筆・色ペン使用は、4枚(4.0%)で、帯ラベルでの色鉛筆・色ペン使用95枚(96.0%)に比べ少数であった。また、自由記述からは、「ワークシートに色がついていたら、かわいいと思うけど、30~40人のワークシートには色はつけられないと思う」などの教師の立場を意識したものがみられた。受講生の多くがワークシートは、教師によって作成されることを前提としていることから、「カラー印刷」は、ありえないと考えていることが推察できる。

児童の記入を前提としている課題の記入欄などでは、清掃前後の、描画18枚(18.2%)、写真添付3枚(3.0%)とカラー印刷や色鉛筆・色ペンを使用している。このことから、教師と児童の両者の立場を意識してワークシートの作成・記入をしていたことが窺える。

#### 2) ワークシートの記載内容

##### (1) アクリルたわしの使用場所

アクリルたわしの使用場所の記述は105件あった。内訳は洗面所27件、台所27件、風呂23件、食器10件、流し9件、ガスコンロ6件、洗面器3件で、水回りが多いことがわかる。居室関係は37件あり、内訳は窓18件、机12件、床7件であった。

児童の感想欄の記述例として、「家でもアクリルたわしを作り、水拭きとから拭きの使い分けをして、食器から流しや車、革靴まできれいにしました」、「水拭きとから拭き、どちらがきれいになるかガスレンジでためしてみたよ。から拭きが水拭きよりきれいになった。がんこな油污れもとれて、ピカピカになってびっくりした。アクリルたわしを洗う時も、洗剤を使わなくてすむので水もあまり使わずエコになる」などの記述からも、清掃場所と方法を考えたことが窺える。

また、学習者である児童に負担をかけさせずに、実行を促すために、机、風呂、食器、流しなど、清掃場所の候補をあげて、印で選択する工夫をしたワークシートが7件みられた。

##### (2) アクリルたわしによる掃除実施日

アクリルたわしによる掃除の実施日については、掃除の実施日23件、掃除の予定日7件、掃除の実施日5日分1件、というように記入欄を設け、掃除の習慣をつけるための工夫もみられた。

アクリルたわしによる掃除の協力者としては、家族とともに掃除をする記述から、母2件、弟1件、母と

姉からアドバイスをもらう1件などが認められた。

(3) 清掃後の感想や評価欄

清掃後の感想や評価の欄については児童による清掃後の感想の記入 97 件(98%) , 教師からの評価 (コメント) 36 件(36.4%) , 保護者や家族からの評価(ひとこと) 30 件(30.3%) , 選択式の自己評価 4 件 (4.0%) と教師の立場を意識した記入欄がみられた。

3) ワークシートのタイトル

表 7 ワークシートのタイトル

N = 99

項目	ワークシートのタイトル
アクリル51	アクリルたわし3 魔法の道具アクリルたわし1 ふわふわアクリルたわし1
	アクリルたわしでそうじをしよう21 アクリルたわしでエコそうじをしよう5
	アクリルたわしワークシート 4 アクリルたわしでエコそうじ4
	アクリルたわしを使ってみよう3 アクリルたわしできれいにしよう3
	アクリルたわしでお手伝いしよう2 アクリルたわしで食器洗い1
	アクリルたわしでLets Creaning1 アクリルたわしそうじ大作戦1
	アクリルたわしでWashing1
クリーン 16	おそうじワークシート5 キレイ×2ワークシート1
	めざせ おそうじ名人1 おそうじをしよう1 クリーン作戦1
	Lets クリーンタイム 1 ラクラクキレイ1 家をキレイにしよう1
	チャレンジびかびかアクリルエコそうじ1 おうちピカピカ隊 1
	どこでも・何でもピカッピカッ1 青空タワシでピカピカにしよう1
エコ 14	エコそうじをしよう4 わくわくエコそうじ4 エコたわしでお手伝いしよう2
	ぼくのわたしのエコアクリルたわし1 ぼくのわたしのエコレポート1
	おそうじあわいらず1 エコそうじワークシート 1
ワークシート9	わくわくワークシート 5 ワークシート4
手作り 9	手作りたわしでそうじをしよう6 自分で作ったまほうのアクリルたわし3

表7に、ワークシートのタイトル名を示す。タイトルとしては、「アクリルたわしでそうじをしよう」21件(21.2%)と最も多く、次に「アクリルたわしでエコそうじをしよう」5件(5.0%)、「おそうじワークシート」5件(5.0%)の順に同名のものがあつた。

ワークシートのタイトル名に記述されているキーワードをアクリル・クリーン・エコ・ワークシート・手作りの5項目に分類した。アクリルの項目にはアクリルを、クリーンの項目には、汚れを落とすイメージのクリーンやそうじなどを、エコの項目にはエコの記述を、ワークシートの項目にはワークシートとシートの記述を、手作りの項目には手作りと自分で作ったのを集めた。また、キーワードを組み合わせたもの、例えば「アクリルたわしワークシート」ではアクリルが先頭にあるのでアクリルの項目に、同じく「おそうじワークシート」ではおそうじが先頭にあるのでクリーンの項目に入れた。

項目で最も多いのが、アクリル51件(51.5%)、次がクリーン16件(16.2%)、エコ14件(14.1%)、ワークシート9件(9.1%)、手作り9件(9.1%)の順となつた。

次に、1枚のタイトル名にキーワードが複数件記述されているものを数えた。例えばアクリルたわしワ



ークシートでは、アクリルたわしとワークシートの項目にそれぞれ1件とした。

その結果、ワークシートのタイトル名中のキーワード数は178件となり、キーワードは、クリーンが最も多く69件(38.8%)、次にアクリル53件(29.8%)、エコ23件(12.9%)、ワークシート20件(11.2%)、手作り9件(5.0%)、手伝い14件(2.0%)の順であった。

このことから、指編みによるアクリルたわしの作品製作とそれによる掃除が、タイトルの命名により強く影響したことが推察された。

#### 4) ワークシート作品の相互評価

ワークシート作品の相互評価にあたっては、受講生の人数が多いために4班に分かれて、相互評価を行った。相互評価の上位9人は17点1人、15点3人、14点と13点各1人、12点2人と12点以上で、全体の12.1%を占めた。

相互評価で最高点を獲得した各班の受講生が、前に出て工夫したことなどを発表した。

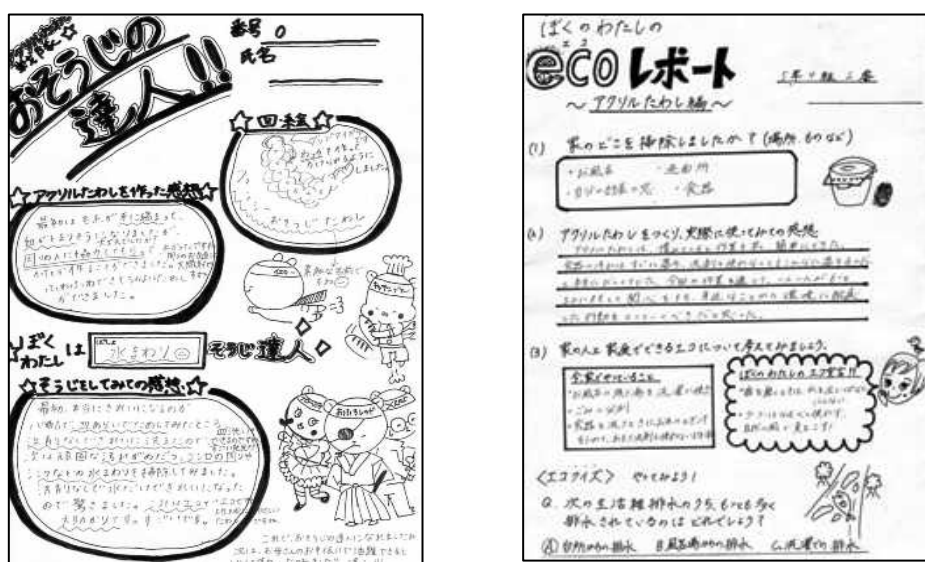


図2 ワークシートの作品例

図2に、ワークシートの作品例を示す。3班と4班のワークシートの相互評価で最上位の作品である。

左の作品は、タイトル名「アクリルたわし戦隊おそうじの達人」、相互評価17点で、「子どもたちに多く書かせる欄や絵を描かせる欄、そうじの達人のオリジナルキャラクター(キッチンブルー、おふるレッド)の絵を入れたりしました」と、説明されたものである。右の作品は、タイトル名「ぼくのわたしのエコレポート」、相互評価15点で、「子どもが意欲的に取り組むように、絵やエコクイズ、エコ宣言を入れました」と、説明されたものである。

1班の相互評価15点のタイトル名「手作りたわしでピカピカ大作戦」では、「絵を入れて子どもたちに興味をもってもらえるように工夫したり、家族からの一言や、先生からのコメント欄を入れて、他者にも自分のがんばりを見てもらえる喜びを味わえるようにしました」と、説明されたものである。ワープロでの作成や掃除前と後のガスコンロの写真を貼った点が評価された。2班の相互評価15点のタイトル名「アクリルたわしでエコそうじ名人になろう」では、「子どもが家でもアクリルたわしを作り、シンクから窓ガラス、革

靴まできれいにしたことや調べ学習を取り入れ、アクリルたわしがなぜ落ちるのか調べて書いたことを工夫しました」と、説明されたものである。

また、相互評価の学習については「相互評価で見合うことにより、よりよいものを知ることができた」、先生や他の人の評価や次へつなげる工夫、自己を見つめ直す欄などの改善点に気づいた」などと自由記述で12名が述べている。そして、一部間違えて作成したことに気づいた受講生はワークシートとはどのようなものかを理解して、後日に新に作成して4人が再提出した。

#### 4) ワークシートの自己評価と教材評価

表8 5件法によるワークシート作成の自己評価 N = 99

評価	5	4	3	2	1
件数	18 (18.2)	32 (32.3)	30 (30.3)	16(16.2)	3 (3.0)

( )内は%

表8に、5件法によるワークシート作成の自己評価を示す。ワークシートの自己評価の平均値は3.46(最小値1,最大値5,不偏分散1.13,標準偏差1.06)である。

ワークシート作成の自己評価の平均値3.46はアクリルたわし4.0,帯ラベル3.61より低い評価であった。自己評価2の理由は「何を書けばよいかわからず,子どもたちの可能性を引き出すワークシートと,という観点に到らなかったです」,「もっとカラフルに工夫すれば良かった。子どもの視点に立ったつもりだったけど,みんなの作品を見て触発された」,「評価された子のようにかわいい絵を入れるべきだった」などがみられた。

ワークシート作成の自己評価の平均値の低い理由は,それはワークシート作成の試みにとまどいをもったこと,相互評価により客観的に自己評価ができたためと窺える。

表9 5件法によるワークシート作成の教材評価 N = 99

評価	5	4	3	2	1
件数	57 (57.5)	29 (29.3)	10 (10.1)	3 (3.0)	0 (0.0)

( )内は%

表9に、5件法によるワークシート作成の教材評価を示す。5件法によるワークシートの教材評価の平均4.41(最小値1,最大値5,不偏分散0.63,標準偏差0.80)で,ワークシートの教材評価は高く,好意的であった。

ワークシート作成の教材評価の平均値4.41は,アクリルたわし製作4.26より高い評価であった。

教材としての評価5の理由は,「子どもが活動を振り返る事は大切なので,ぜひ取り入れたい」,「自分で項目を作ることにより,授業内容を深く理解できる」,「子どもがどのように活動したか知りたい」,「自分の活動を振り返るきっかけになる」などと,ワークシート作成を授業の振り返りに必要な教材として認識していると思われる。

教材評価が2の理由は,「子どもが自分で作ることは新たな発想だが,子どもには作ったものを渡すつもり」,「小学生段階ではワークシート作成までは難しいと思う」などとあり,ワークシートを作成するのが学

習者の児童なのか、指導者の教師なのか、それにより教材としての評価を左右された受講生がいた。

なお、ワークシート作成の教材評価と自己評価ともに5または4の件数は45件(45.5%)となり、2または1の件数は0(0.0%)であった。やはり、受講生はワークシート作成に対して、自己評価と教材評価において、同じような傾向を示すことがわかった。

また、ワークシート作成の45件は、帯ラベル作成41件より上回るものの、アクリルたわし製作65件より、20件下回るものであった。

表10 ワークシートに関する自由記述内容

N = 71

項目	好意的記述内容(61)	非好意的記述内容(10)
教師体験 20	教師になった時、役に立つ・良い経験 1 先生になりきって作った 4 教師の予行演習ができよかった 2 教師になった時を想定できた 2	
児童の視点 20	子どもの視点で書け、楽しかった 6 子どもが書きたくなるものを 5 子どもが理解できるよう工夫した 4	子どもがわかるように作るのが難しい 5
教師への意欲 6	小学校で実践したい 2 評価について考えた 2	チェック項目を考えるのが難しい 2
教師と児童 4	教師と子どもの立場で考えられた 4	
教材作成 9	授業の目的を考えて作成した 5 現場で使えるものをめざした 1	作り方を教えて欲しい 2 作り方がわからない 1
教材観 12	振り返りに最適な教材 8 経験をもとにまとめができる 2 掃除用具の使い方を考える良い機会 1 掃除を教材にするとはいすごい 1	

表10に、ワークシートに関する自由記述内容71件を示す。自由記述内容は、好意的記述内容61件(85.9%)、非好意的記述内容10件(14.1%)であった。

教師体験、児童の視点20件(28.2%)が多く、次に教師への意欲6件(8.5%)、教師と児童4件(5.6%)の順になった。教師体験20件(28.2%)の項目では、教師になった時に役に立つ良い経験12件(16.9%)などが多く、好意的記述内容のみであった。児童の視点20件(28.2%)の項目では、子どもの視点で書け、楽しかった6件(8.5%)などと好意的記述内容があるが、子どもがわかるように作るのが難しい5件(7.0%)との非好意的記述内容がみられた。教材観12件(16.9%)では、振り返りに最適な教材8件(11.3%)などと好意的記述内容のみであった。教材作成9件(12.7%)では、授業の目的を考えて作成した5件(7.0%)と好意的記述内容があるが、作り方を教えて欲しい2件(2.8%)、作り方がわからない1件(1.4%)との非好意的記述内容もみられた。

なお、非好意的記述内容は、ワークシート作成の教材支持を否定するものではなく、かえって、子どもが理解できるものをめざして、作り方を教えて欲しいとの積極的な学習意欲が窺えるものであった。

## ま と め

小学校教師志望の学生に対する教師教育の重要性が痛感され、教師教育の一環として、授業実践力育成のために「オリジナルアクリルたわしの教材開発と実生活での掃除体験報告のためのワークシート作成」の課題を設定し、受講生に授業評価を求めた結果、以下のような若干の知見を得た。

- 1) アクリルたわしは平均 21.0 分で製作でき、小学校の授業1コマの時間である 45 分以内では 97.0%、50 分以内では 100% であることから、授業2コマの時間内に十分に実施可能なものであった。
- 2) 5 件法による自己評価は、ワークシート 3.46 < 帯ラベル 3.61 < アクリルたわし 4.00 の順に高い評価であった。
- 3) 5 件法による教材評価は、帯ラベル 4.11 < アクリルたわし 4.26 < ワークシート 4.41 の順に高く、好意的評価であった。
- 4) 帯ラベルの記述内容は、エコに関して商品名では 35 件(35.4%)、帯ラベルの使用用途・方法・注意書きの記述中に、洗剤不使用等の環境に関するものを 61 人(61.6%)から、環境教育への関心が窺えた。
- 5) ワークシートのタイトルで、最も多い項目はアクリル 51 件(51.5%)、次は、クリーン 16 件(16.2%)、エコ 14 件(14.1%)、ワークシート 9 件(9.1%)、手作り 9 件(9.1%)の順であった。

指編みによるオリジナルアクリルたわし製作とそれによる掃除の体験が、タイトルの命名に影響をしたと推察される。

- 6) 自由記述におけるワークシート作成に関する記述が 71 件あり、好意的記述内容が 61 件(85.9%)みられた。非好意的記述内容は、7 件(14.0%)みられたが、子どもが理解できるものをめざして、作り方を教えて欲しいとの積極的な学習意欲が窺えるものであった。

以上、教師教育の一環として、小学校教師を志望する学生を対象に、授業実践力育成のために「オリジナルアクリルたわしの教材開発と実生活での掃除体験報告のためのワークシート作成」の課題の設定を試み、受講生に評価を求めたところ、好意的評価を得た。

今後、大学でも授業実践だけでなく、小学校におけるわかりやすい発問などを想定・授業設計できるよう、授業実践力育成のためのさらなる教材開発・授業実践を重ねていきたい。

## 注

- 1) 山本 紀久子「指ねじり編みによるアクリルたわしの教材化」『茨城大学教育実践研究』27(2008)pp.105-112.
- 2) 山本 紀久子「ゆび編みによる最初の目の技法」福井大学教育地域科学紀要第 部応用化学(家政学編) 第 40 号 2001 12.
- 3) 山本 紀久子「消費者教育の教材開発とその技法 指編みの手順書作りを中心に」『消費者教育』

第25冊 (日本消費者教育学会, 2005)pp.107-116.

- 4) 山本 紀久子 『指ねじり編み\*ぐん手編み』 (梨の木舎 2002).
- 5) 山本 紀久子 「30分で編める平伏しねじり編みマフラーづくり」『21 授業のネタ 家庭科』, (日本書籍, 2001), pp.37-48
- 6) 朝日小学生新聞「手を動かしてなにかつくってみよう 楽しい『あやとり』の授業 東京教育大学附属小学校で」『朝日小学生新聞』, (1977年7月2日), p6.
- 7) 山本 紀久子 「第1学年 総合活動指導案 あやとり」『調和のある新教育課程の構造と実践 実践的研究 (第1年次) 』 (東京教育大学附属小学校, 1977), pp.12-13.